

ざんぎり頭の高崎

高崎史志の会 堤 克政

1. 高崎藩城下町が終る

260年繁栄の基礎・城下町と武士の身分終る

(1) 武家政権の終焉…武士がいなくなる

15代将軍徳川慶喜 大政奉還…天皇から委託されていた政権を還し奉る

薩長の新政府 府藩県三治体制 大名家は「藩」に 旧幕府領は「府」と「県」に
 ↓版籍奉還 版(領知)籍(領民)を天皇(政府)に還し奉る
 ↓廃藩置県 「藩」が「県」に→県を統合し集約

廃藩置県…無血クーデター→中央集権

(2) 武士のプライドが崩れ去る

武士の象徴…侍鬘 明治4年 散髪脱刀令(断髪令)

武士の魂…二本差し 明治9年 帯刀禁止令(廃刀令)

大名家の象徴…天守櫓 明治6年 存城廃城令

(3) 消費者が大幅に減少

城下町の消費者武士←衣食住に関わる職人・商人

江戸詰が戻る→高崎は竜見町・山田町に 一時的人口増

廃藩置県で高崎県官員 高崎県廃止→群馬県に就職できず→武士から繋がる職を失う

東京など高崎以外の地に職を求める元武士

家禄奉還・秩禄処分→収入不安定

(4) 城下町からの都市変貌

都市名	幕末	12年		治19年		都市名	幕末	12年		治19年		都市名	幕末	12年		治19年			
	石高	人口	順	人口		石高	人口	順	人口		石高	人口	順	人口		石高	人口	順	人口
金沢	102	10.8	5	9.8	水戸	35.0	1.7	51	1.9	秋田	20.5	3.1	29	3.0	小倉	15.0	0.9		0.9
鹿児島	77.0	5.3	14	4.5	鳥取	32.5	3.5	61	1.8	盛岡	20.0	2.9	27	3.0	高松	12.0	3.0	20	3.8
仙台	62.5	5.5	9	6.2	津	32.3	1.1	68	1.6	松江	18.6	3.6	23	3.3	柳川	11.9	1.4	90	1.3
名古屋	61.9	11.4	4	13.2	福井	32.0	4.2	21	3.7	川越	17.0	1.3	83	1.4	福山	11.0	1.8	79	1.5
和歌山	55.5	6.2	11	5.5	岡山	31.5	3.3	24	3.3	鶴岡	17.0	2.6	46	2.1	小浜	10.3	1.5		1.0
熊本	54.0	4.5	15	4.4	会津	28.0	2.2	35	2.6	大和郡山	15.1	1.4	88	1.3	淀	10.2	2.2	49	2.0
福岡	47.3	4.5	17	4.3	徳島	25.7	4.0	10	5.8	米沢	15.0	2.8	38	2.4	弘前	10	3.3	31	2.8
広島	42.6	7.7	7	8.2	彦根	25.0	2.8	53	1.9	松山	15.0	2.0	28	3.0	忍	10	0.9		0.3
萩	36.9	2.6	30	2.9	高知	24.2	2.9	25	3.1	高田	15.0	2.0	35	2.6	高崎	8.2	1.5	48	2.0
佐賀	35.7	1.5	37	2.5	久留米	21.0	1.2	46	2.1	姫路	15.0	2.4	41	2.3	前橋		1.4	63	1.7

規模の大きい藩でも城下人口減

多くの城下町→県庁所在地（県都）→人口維持

港湾商業都市の発展

城下町兼宿場町兼町屋町・高崎→鉄道の町兼商都・高崎

2. 高崎県が幻に、県庁は前橋へ

高崎県、県庁高崎市になっていたかも

(1) 高崎県になるはずなのに

上野国→高崎県→群馬県（第一次）→熊谷県→群馬県（第二次）

諸県を廃し新しい県をつくる布告案

別紙ノ通、上野国ノ内従前ノ諸県ヲ被廢、更ニ高崎県被置候様仕度、依之仰布告案並置県ノ別冊相添此段奉伺候

辛未十月二十四日

大蔵少輔 吉田清成

大蔵大輔 井上 馨

大蔵卿 大久保利通

正院御中

御布告案

今般、上野国ノ内左ノ県を被廢、更高崎県被候事、従前管轄ノ地所、当未年ヨリ物成御村等高崎県へ引渡可申事

上野国 高崎県、沼田県、安中県、伊勢崎県、小幡県、前橋県、七日市県、岩鼻県
又、今般廢県ノ官員、当分従前ノ県庁ニ於テ事務可取扱事

群馬

高崎県

高崎県を群馬県とする伺

立県ノ儀ニ付、過日伺置候内高崎県ノ儀云々ノ情実モ有之候間、群馬県ト御引直シ相成候様致シ度此度猶相伺候也

辛未十月二十七日

「云々の情実」→たった3日で群馬県

水戸県・宇都宮県・高崎県・川越県・佐倉県・小田原県にならず

(2) 逃げられた県庁

楯取熊谷県令←下村善太郎が密かにアプローチ

楯取県令からの条件

1. 県庁舎を提供
2. 職員官舎の新築
3. 諸物価の値上げしない
4. 師範学校の建設
5. 病院の建設

下村中心に前橋商人が県庁誘致運動

移庁誘致寄付金 25名で2万7500万円 うち下村が1万円、勝山宗三郎3000円他
高崎の利点：利根川西側で交通の便が良い 町の景況が前橋より数段上である
高崎の最大欠点：庁舎がなく寺に分散するしかない

(3) 前橋の事情と高崎の交渉

前橋が県庁を誘致した背景

- 1749年 前橋藩酒井忠恭が播磨姫路藩へ転封 松平（結城）朝矩が入封
- 1767年 前橋城本丸利根川に浸食→武蔵川越に移転 川越藩飛地 城下町でなく寂れる
- 1863年 川越藩松平（結城）直克が前橋帰城許可 領民による出資労働奉仕で竣工
- 1867年 前橋城再築 直克入城前橋藩再興
- 1872年 廢藩置県により本丸御殿以外取壊し 百年の悲願が水泡に

前橋の決め手

- 明治7年 下村が楫取と水面下で県庁移転を交渉
下村の熱意と前橋の誘致条件+楫取には渡りに船

高崎の抗議行動

- 明治10年 楫取県令が直接説諭
「一時的に前橋に移した。高崎へ本庁建築の場所調査済、地租改正作業が終われば
高崎に県庁を新築」→楫取の食言
- 明治15年 高崎住民総代が大挙して県庁へ抗議
- 明治16年 東京控訴裁判所にて高崎敗訴・総代資格に摺り替えられる

3. 県庁を失っても

(1) 軍隊がやって来た

- 立地条件整う 要衝の平地に築かれた城→近代軍隊駐屯地の適地
- 明治5年 高崎城址が兵部省の管轄下→翌年東京鎮台高崎分営
- 明治27年 日露戦争に出動 翌年2月に凱旋→高崎駅前「凱旋通り」
- 社会資本整備に間接的に貢献...病院設置と上水道完成
- 明治7年 東京鎮台高崎分営
高崎營所病院が完成→高崎衛戍病院に→高崎陸軍病院→国立高崎病院
- 明治21年 飲料水汚染が原因 290人の腸チフス患者発生、兵営内122人
- 明治43年 市内全域を給水区域の上水道 人口36,000人

町の経済に効果

- 兵員は消費者 十五連隊御用達の店 慰問家族や壮行会等の宿泊・宴席

(2) 鉄道がやって来た

明治政府 文明開化の象徴の一つ鉄道敷設

明治5年8月新橋・横浜間開業 明治7年5月神戸・大阪間開業

東京・京都間の鉄道ルート議論 旧中山道ルート 西南戦争 新政府財政難→民間資金

明治16年7月に上野・熊谷間開業

翌年5月に高崎まで全線開通 8月前橋（現石倉）まで延伸

東北本線は2年後 明治18年7月大宮・宇都宮間開業

輸出主力商品の生糸輸送

明治18年3月に赤羽・品川間の日本鉄道会社と連結→横浜まで生糸直送

街道交通の要所伝馬高崎→高崎駅からの鉄道網→交流拠点都市

4. 江戸の繁栄が続く

お江戸みだけりゃ高崎田町…生糸関連の繁栄

(1) 県下初の銀行進出

国立銀行…国法によって立てられた銀行

第一国立銀行（頭取渋沢栄一）明治6年設立

生糸貿易の伸長・隆盛→第二国立銀行（頭取原善三郎・副頭取茂木惣兵衛）明治7年設立

第二国立銀行高崎支店 明治8年九蔵町に開店

第七十四国立銀行明治11年設立…茂木商店の機関銀行に→明治28年に茂木銀行

(2) 県下初の商業会議所

全国商工会議所設立状況(日本商工会議所調査)

単位:千人

	設立年月	会議所名	人口		設立年月	会議所名	人口		設立年月	会議所名	人口
1	1878.03	東京	1389	17	1881.04	和歌山	56	33	1893.05	四日市	17
2	1878.08	大阪	476	18	1882.03	鹿児島	57	33	1893.05	津	28
3	1878.10	神戸	135	19	1882.05	松山	32	36	1893.08	宇都宮	30
4	1879.10	長崎	55	20	1883.10	京都	279	37	1893.09	半田	13
4	1879.10	堺	48	21	1885	鳥取	28	38	1893.10	青森	19
6	1879.10	福岡	53	22	1890.12	岐阜	27	39	1894.03	松江	35
7	1879.10	大津	29	23	1891.01	広島	88	40	1894.08	八王子	21
8	1879.12	岡山	48	24	1891.02	仙台	90	41	1895.09	函館	52
9	1879.12	熊本	52	25	1891.06	高知	32	42	1895.11	高崎	24
10	1880.02	高松	32	26	1891.10	米子	13	46	1896.06	水戸	25
11	1880.03	金沢	94	27	1892.11	岡崎	16	47	1896.07	新潟	46
12	1880.04	横浜	121	28	1892.11	静岡	37	49	1897.01	山形	29
13	1880.04	福井	40	29	1892.11	尾道	18	52	1898.01	前橋	28
14	1880.06	富山	58	30	1890.02	大垣	21	56	1901.05	長野	28
15	1880.11	下関	29	31	1893.03	豊橋	13	59	1906.10	札幌	16
16	1881.03	名古屋	162	32	1893.04	浜松	13	61	1907.12	秋田	29

*人口は1889年の市町村制施行時 高崎以降の設立は主な会議所

明治 23 年「商業會議所条例」制定

明治 11 年設立東京商法會議所→明治 24 年東京商業會議所→東京商工会議所

明治 20 年高崎商工会→明治 28 年高崎商業會議所→高崎商工会議所

東京より 4 年遅れ 全国 24 番目 県下初

役員は江戸時代からの商人（中島伊平・須藤清七・福田儀兵衛・清水新次郎ら）

5. 高崎のプライドを支えた寄付行為

商都に相応しい教育←民間の力で施設

(1) 小学校の校舎新築

明治 5 年 学制発布 新政府財政脆弱→小学校校舎は寺院

高崎小学校新築 費用は市民の寄付

(2) 全国でも開校の早い商業学校

高崎商人の願い 1 番は明治 11 年神戸開校

港湾都市（横浜・新潟・名古屋・下関・長崎・函館・鹿児島・高岡等）が早い

内陸都市（近江八幡・福島・高崎）では少ない

高崎市立商業補習学校→高崎市立甲種商業学校

群馬県議会「高崎は金があるから県立にする必要はない」

(3) 高邁な志の私設図書館

若手実業家山田昌吉・蟬山政次郎・小島弥一郎らの「同気茶話会」

明治 43 年創設 建設費 2,620 円←篤志家の寄付金 4,700 円

浜松に高崎の 2 年後 浜松青年同志会 前橋に大正 5 年市立で

私立高崎図書館趣旨書 抜粋

「人々読書を嗜好するに至れば、知識自ら進み、品位自ら高まり、風俗自ら善美となり、或は無益の娯楽に日を消し、或は閑居不善を為すの陋習の如きは自ら湮滅し、人々求めずして安寧に、期せずして幸福なるに至るべし。これ読書の人生を向上せしめ社会を健全ならしむる所以なり。」

「我市の商工業者は、これによりその業間にこの図書館を利用し、以て疲労を慰安し、終生の良嗜好を養成することを得る。我市の学生はこの図書館に就いて大いに其の課業を裨補するの益あるのみならず、その課業に疲労せる精神を慰める便がある。」

「その他一般の人は自修研究を積み知徳を修養することを得るため、何れの方面を問わず円満なる常識と向上の理想を備ふる忠実健全なる市民は、必ずやこの図書館より生まれる。もし自修によって名を為せる大人物の出でる者あれば、必ずこの図書館の門に入った者なるべきなり。」